

科目名	担当者名	配当	期	単位
経営学	宮城 徹	1・2・3選必	後期	2

## ■講義内容■

世界の経営学をリードしているアメリカ経営学とドイツ経営学の理論的・経験的研究の最先端の基本的成果を正しく理解し、その関連で日本の企業の諸問題を全般的に検討することを目的とする。講義においては、上記の双方の言語圏の経営学において議論されていることを学習し、どこに困難性があるかを見出し、意見の相違に関心を向ける。すなわち、今日の問題状況を検討する。この目的のために、ディベート中心の授業を進める。その際、受講生は自分の思うところを正しく述べ、相手の意見に注意深く耳を傾け、全体の特徴をパッとつかまえ、斬新にして手堅く主張するよう希望したい。

## ■シラバス■

### <科目のねらい>

企業は一国の経済の成長と繁栄の原動力である。受講生が企業という経営学の認識対象を正しく理解することを目的とする。

### <科目の内容>

#### 第1回 プロパティ・ライツ理論

この理論が基づいている4つの要素、すなわち、(1) 個人的効用最大化、(2) プロパティ・ライツの存在、(3) 取引コストの存在、(4) 外部効果の発生について検討・ディベートする。

#### 第2回 取引コスト理論

取引コストの分析のプロセス、すなわち、交換関係の特異性・不確実性の度合を確かめた後で、それぞれの取引の雰囲気为背景にして、そこに予期される取引の頻度を検討し、ノウハウと資本の利用可能性を考慮して、取引コストが比較的わずかになるような調整形態を選択するプロセスについて検討・ディベートする。

#### 第3回 プリンシパル－エージェント理論

この理論の重要な要素、すなわち、プリンシパルとエージェントの関係、エージェント・コスト、情報の非対称性の類型及びプリンシパルとエージェントの関係の組織デザインの可能性として適切な制度的統合形態を探し出すことについて検討・ディベートする。

#### 第4回 契約の理論

上記の3つの理論との関連で、古典派契約、新古典派契約及び関係契約について検討・ディベートする。

#### 第5回 企業家精神

市場のプロセスにおける企業家精神の重要性との関連で、イノベーション・調整・裁定機能について検討・ディベートする。

#### 第6回 企業組織

企業組織についてのさまざまな見方と根本原則としての分業、交換、付加価値及び調整とモチベーション等について検討・ディベートする。

#### 第7回 市場と組織

社会的抑制力のシステムと社会的発展のシステムの側面を検討・ディベートする。

#### 第8回 コーポレート・ガバナンス

今の日本・アメリカ・ドイツの企業統治システムを比較することに焦点を当てて検討・ディベートす

る。

#### 第9回 企業のモジュラー化

市場志向的に財・サービスを生産する全体的プロセスというモジュラー化の考え方について検討・ディベートする。

#### 第10回 共生とネットワーク

企業は自社の仕事を成し遂げる上で、法的・経済的に独立した他企業を取り込んで強く提携していく傾向について検討・ディベートする。

#### 第11回 新しい制度派経営学

制度（たとえば、契約・組織、構造、言語及び貨幣）が人間行動に及ぼす影響、効率的デザインや進化的発展の可能性及び制度の合理的デザインについて検討・ディベートする。

#### 第12回 テレワークと仮想企業

どんどん進められている場所の解体及び財・サービスの生産の組織形態に対するその重要性とインプリケーションを検討・ディベートする。

#### 第13回 人的資源の新しい役割

組織のなかの人間の成果の範囲を拡大するためのさまざまなアプローチについて検討・ディベートする。

#### 第14回 全講義内容の総括

#### 第15回 定期試験

#### <教科書>

宮城徹（訳）『情報時代の企業管理の教科書－組織の経済理論の応用』（税務経理協会、2009年）

#### <参考書>

宮城徹（他訳）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房、2007年）

宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会、1983：1999年）

浅沼・岩崎（訳）『市場と企業組織』（日本評論社、1980年）

井上・中田（監訳）『エコノミック・オーガニゼーション』（晃洋書房、1989年）

宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号、1985年）

宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房、1987年）

宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論 [第2版]』（成文堂、1989：1999年）

宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社、1983：1993年）

宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』（千倉書房、1997年）

宮城徹「企業統治の研究の統合の一試論」『駒大経営研究』（第31巻第1・2号、2000年）

宮城徹「企業文化と組織の経済理論」遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』（敬愛大学学術叢書）（白桃書房、2003年）

宮城徹（訳稿）「民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎－0. ウィリアムソンの貢献＊－」

\* Ingo Pies : Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik – Der Beitrag Oliver Williamsons, in : Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001) : Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen : Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号 (2008年)

宮城徹（訳稿）「取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデートル－組織の経済学の構想の新しい志向を求めて＊－」

\* Ingo Pies : Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure – Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in : Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001) : Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen : Mohr Siebeck, S.95-119. 『駒大経営研究』(第39巻第3・4号、2008年)